

新美南吉になりたかった正八 ～南吉とキリッネたち～

「ごんぎつね」の作者・新美南吉をテーマに、
彼が残した文学作品の朗読や映画の上映を通じて
29歳で早逝した新美南吉の人物像に迫る。

2025年
4月29日(火・祝)
11:00/15:00
開演
(各回30分前開場)



上映作品「劇場版 むん - GON, THE LITTLE FOX -」

原作:「ごんぎつね」新美南吉 監督・脚本・美術・木影・アニメート:八代健志 2019年|日本|カラー|ビスタ|28分|BD

【構成・演出】ふじたあさや

【音楽】中野亮輔(青年座)

【衣裳協力】岩男海史(DADAGRAM)

【出演】加來梨夏子(劇団民藝)、中野亮輔(青年座)、八代名菜子(青年劇場)

※五十音順

託児サービスについて

※要事前予約

舞台鑑賞中に、3F特設ブースにて保育スタッフ
がお子さんをお預かりします。

対象 2～5歳 諸費用 200円 定員 5名



左記QRコードを読み取り、
メールにてお申込みください。

【予約締切】4月26日(土)

※チケットは別途お求めください。

【会場】川崎市アートセンター 小劇場

【発売日】2025年1月31日(金) ※1月17日(金)よりweb先行発売あり(1月24日(金)まで)

【料金】おとな子どもペア4,000円、おとな3,000円、U30割2,000円、子ども(小学生以下)1,500円、
(全席指定・税込) シネマ会員2,500円(しんゆりチケットセンターのみ・ポイントなし)、障がい者割引2,000円(付添
1名まで同額。要障がい者手帳・しんゆりチケットセンターの電話と窓口販売のみ)
※U30割のお客様は当日身分証の提示をお願いする場合がございます
推奨:小学生以上

【取扱い】しんゆりチケットセンター(川崎市アートセンター内) ほか
web <https://kawasaki-ac.jp/ticket/>



2025年
4月29日(火・祝)
11:00/15:00
開演
(各回30分前開場)

新美南吉になりたかった正八 ~南吉とキノネたち~

前回のコラボ企画の主人公は、宮沢賢治でした。生前は童話集が一冊と詩集が一冊作られたきりの賢治の全集を作ろうと、草野心平や高村光太郎・尾崎喜八らが集まって、第一回宮沢賢治友の会が、没後5ヶ月目に新宿「モナミ」で開かれ、賢治の弟清六が賢治愛用のトランクに原稿を詰め込んで参加しました。その席に、巽聖歌に連れられて、21歳の新美南吉が参加しました。愛知県出身の彼は、東京外国語学校に在学中で、すでに何本も童話を書いていました。彼は巽聖歌を兄のように慕い、宮沢賢治に憧れていたのです。数年間の教師生活の後、37歳で死んだ賢治に倣うように、彼も同じ肺疾患で、29歳で若死にしました。

その死んだはずの南吉が、代表作『ごんぎつね』のアニメーションが上映される劇場にやってきました。そこへ南吉をよく知る二人の登場人物が現れて、展開する不思議な時間!

構成・演出 ふじたあさや

なかの りょうすけ
中野亮輔

俳優(青年座)

東京都出身。劇団青年座研究所を経て2014年入団。以後、舞台を中心に活動。主な出演作に、舞台:『クロスロード』、『キヤメロット』、『GOYA』、『横浜短篇ホテル』、『はだしのゲン』、ドラマ:『ひよっこ』(NHK)など。ギター・ベース・ピアノ・パーカッション・民族楽器等の多彩な楽器を操る。

やしろ ななこ
八代名菜子

俳優(青年劇場)

劇団青年座研究所を卒業後、青年劇場へ入団。コメディから悲劇まで多彩な役柄をこなす演技力にも定評を得ている。主な出演作品は『随想幻想2011』『裸の町』『子供の時間』など。特技は日本舞踊。その他、ワークショップの講師や演劇部での外部指導も行っている。

かく りかこ
加来梨夏子

俳優(劇団民藝)

1997年 福岡県出身。桐朋学園大学を卒業後、2020年に民藝に入団。初舞台は2022年の『レストラン「ドイツ亭」』。エファー役で抜擢される。近年の舞台には『ノア美容室』、『忘れてもうろうよかどです』、『真夜中の太陽』など。2023年しんゆりシアター「女学者たち」に出演。舞台を中心に活躍している。



『劇場版 ごん - GON, THE LITTLE FOX -』

2019年|日本|カラー|ビスタ|28分|BD

原作:『ごんぎつね』新美南吉

監督・脚本・美術・木彫・アニメート:八代健志

いたずらばかりしているぎつねのごんと、心の優しい兵十。ある日、兵十が川で獲ったウナギをごんは逃がしてしまう。それは病気の母のためのウナギだった。母を亡くした兵十を見て、ごんは僧おうとする。木彫の人形を少しずつ動かしながら動画にしてゆくコマ撮りという技法で作られた28分の短編映画。美しく豊かな日本の自然や季節のめぐりの中で動植物と人間の関わりが描かれた物語は、優しさと哀しさが同居した切ない気持ち呼び起こします。

新美南吉について

1913年(大正2)年7月30日、愛知県知多郡半田町(現半田市)生まれ。児童文学者、東京外国語学校英語部文科卒業。本名は新美正八(しょうはち)。4歳で母を亡くし、養子に出される子ども時代をおくる。文学の師の北原白秋や先輩詩人たちそして女性たちや女学校で教える子たちの出会いに恵まれるが、健康に恵まれず、初めての童話集を出した翌年に29歳で亡くなる。代表作は『ごんぎつね』『手袋を買いに』『おじいさんのランプ』『でんでんむしのかなしみ』ほか。



© TAIYO KIKAKU Co.,Ltd./TECARAT

チラシデザイン・イラスト 河合さちこ

チケットご購入のご案内

アルテリッカは、ジャンルを超えた芸術の祭典!

インターネット 検索

窓口販売 (A、B、C、D/地図参照)

1月17日(金)よりweb先行発売
(1月24日まで)
1月31日(金)より一斉発売!
良いお席はお早めに

しんゆりチケットセンター (24時間対応)
<https://www.kawasaki-ac.jp/ticket/>

電話予約

しんゆりチケットセンター
TEL. **044-959-2255**
(9:00~19:30)
※毎月の施設点検日を除く

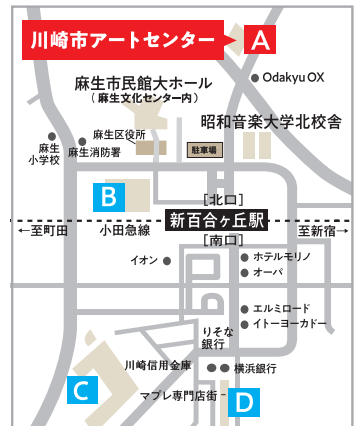
A しんゆりチケットセンター (川崎市アートセンター内)
(9:00~19:30) ※毎月の施設点検日を除く

B 新百合トウエンティワンホール (10:00~17:00)

C 昭和音楽大学チケットセンター (昭和音楽大学南校舎内)
(10:00~12:00/13:00~18:00) ※土・日・祝を除く

D マイタウンチケットセンター マブレ専門店街「写真工房 彩」内
(平日9:00~19:00/土・日・祝10:00~19:00)

新宿より小田急線快速急行25分



主催: 川崎市アートセンター 共催: 川崎・しんゆり芸術祭実行委員会 川崎市 川崎市教育委員会
後援: 「音楽のまち・かわさき」推進協議会 NPO法人しんゆり・芸術のまちづくり 「映像のまち・かわさき」推進フォーラム